

# 伊藤忠商事のCSRとは

伊藤忠商事の社会的責任の本質は何か。

それを遂行するためには何が必要かについて、2005年春から社内で議論を重ねてきました。

ここで、当社のCSRに対する認識について報告します。

## 伊藤忠商事と社会との共生についての考え方

### ルーツは“三方よし”

伊藤忠商事は、幕末の1858年に初代の伊藤忠兵衛が麻布類の卸売業を始めたことがその起こりです。

忠兵衛は、「商売人はいかなることがあっても嘘をいわぬこと」を商売の上での哲学とし、生涯これを貫きました。これは、「人に対し、ビジネスに対し、何より己に対し誠実であること」を意味しており、時代は変わっても、当社はその商人魂を受け継いでいます。

また忠兵衛は、出身地である近江の商人の経営哲学「三方よし」の精神も事業の基盤としていました。その「売り手よし、買い手よし、世間よし」の哲学は、「企業はマルチステークホルダーとの間でバランスの取れたビジネスを行うべきである」とする、現代CSRの源流であり、当社はそれを150年前から標榜していたこととなります。

### グローバル企業としての伊藤忠商事

創業当時の、「仕入れて売る」というシンプルなビジネス形態から、現在ではトレーディングに加え、注力すべき分野には企業買収まで含めて事業投資するなどの手法を用い、かつ、原料などの川上から小売などの川下までを包括的に事業領域とするというように、伊藤忠商事はこの150年の間にそのビジネス形態を大きく変えてきました。

21世紀に入りグローバル化の負の側面として明らかになってきた数々の地球規模の問題に対し、企業の社会的責任を問う声が高まってきているなかで、当社は社会に対してどのような影

### 伊藤忠商事企業行動基準

- 1) 法令等の遵守**  
伊藤忠商事は、法令の遵守はもとより、国際ルールおよびそれらの精神を遵守し、社会的良識をもって行動します。
- 2) 社会的に有用な商品、サービスの提供**  
伊藤忠商事は、多様化する消費者等の社会的ニーズに応えると共に、製造物責任・省資源・省エネルギー・環境保全等にも充分配慮を払い、安全かつ有用な商品・サービスの提供に努めます。  
また、商品・サービスの取扱いは、社会性についても充分配慮したうえを行います。
- 3) 長期的な視野に立った経営**  
伊藤忠商事は、短期的な収益のみにとらわれず、常に長期的な視野に立った経営を行います。
- 4) 公正な取引**  
伊藤忠商事は、公正かつ自由な競争の確保が市場経済の基本ルールとの認識のもとに商活動を行い、また、政治・行政との健全かつ正常で透明な関係を維持します。
- 5) 企業情報の開示**  
伊藤忠商事は、株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションをはかり、積極的に企業情報を正確かつ公正に、適時開示します。
- 6) 環境問題への積極的取組**  
伊藤忠商事は、環境問題への配慮を常に忘れず、自主的、積極的に取り組みます。
- 7) 社会貢献**  
伊藤忠商事は、企業の利益と社会の利益を調和させ、「良き企業市民」としての役割を積極的に果たします。
- 8) 働きやすい職場環境の実現**  
伊藤忠商事は、従業員のゆとりと豊かさを実現し、働きやすい環境を確保すると共に、従業員の人格・個性を最大限に尊重し、自由闊達で創造性の発揮できる企業風土を実現します。
- 9) 反社会的勢力および団体との対決**  
伊藤忠商事は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会勢力および団体とは断固として対決します。
- 10) 国際協調**  
伊藤忠商事は、諸外国の習慣および文化を尊重し、平和を守り、現地の発展に貢献する経営を行います。
- 11) 周知徹底**  
伊藤忠商事は、別途定めるところに従い、「伊藤忠商事企業行動基準」の周知徹底と社内体制の整備を行います。
- 12) 率先垂範**  
伊藤忠商事の経営者は、自ら率先垂範し、「伊藤忠商事企業行動基準」の精神の実現に努め、万一、「伊藤忠商事企業行動基準」の内容に反するような事態が発生した場合には、経営者自ら問題解決にあたり、原因究明・再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ確かな情報公開を行うと共に、権限と責任を明確にしたうえで、自らも含めて厳正な処分を行います。

響を及ぼしているのでしょうか？

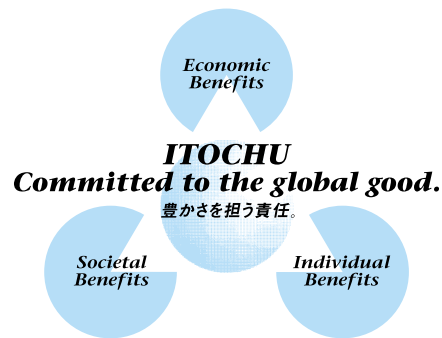
伊藤忠商事は世界75カ国に拠点をもち、国も地域も越えて事業活動を行っています。複数の業種で数多くの取引先を持つ当社の事業活動が、社会に与えるインパクトは決して小さなものではありません。

### 持続可能な社会に向けて

地球温暖化や途上国の貧困といった世界的な課題、そして私たち先進国の経済活動がこれらの課題に及ぼす影響の大きさを考えるとき、伊藤忠商事が果たすべき社会的責任は、質、量ともに大きなものです。

当社は、「これからの社会に対してどうコミットするか」を常に考え、「豊かさを担う責任」という企業理念を掲げています。そして、その企業理念に基づき、持続可能な社会を実現するために、当社の社会的責任を明確にし、課題を遂行していきます。

### 伊藤忠商事の企業理念～豊かさを担う責任～



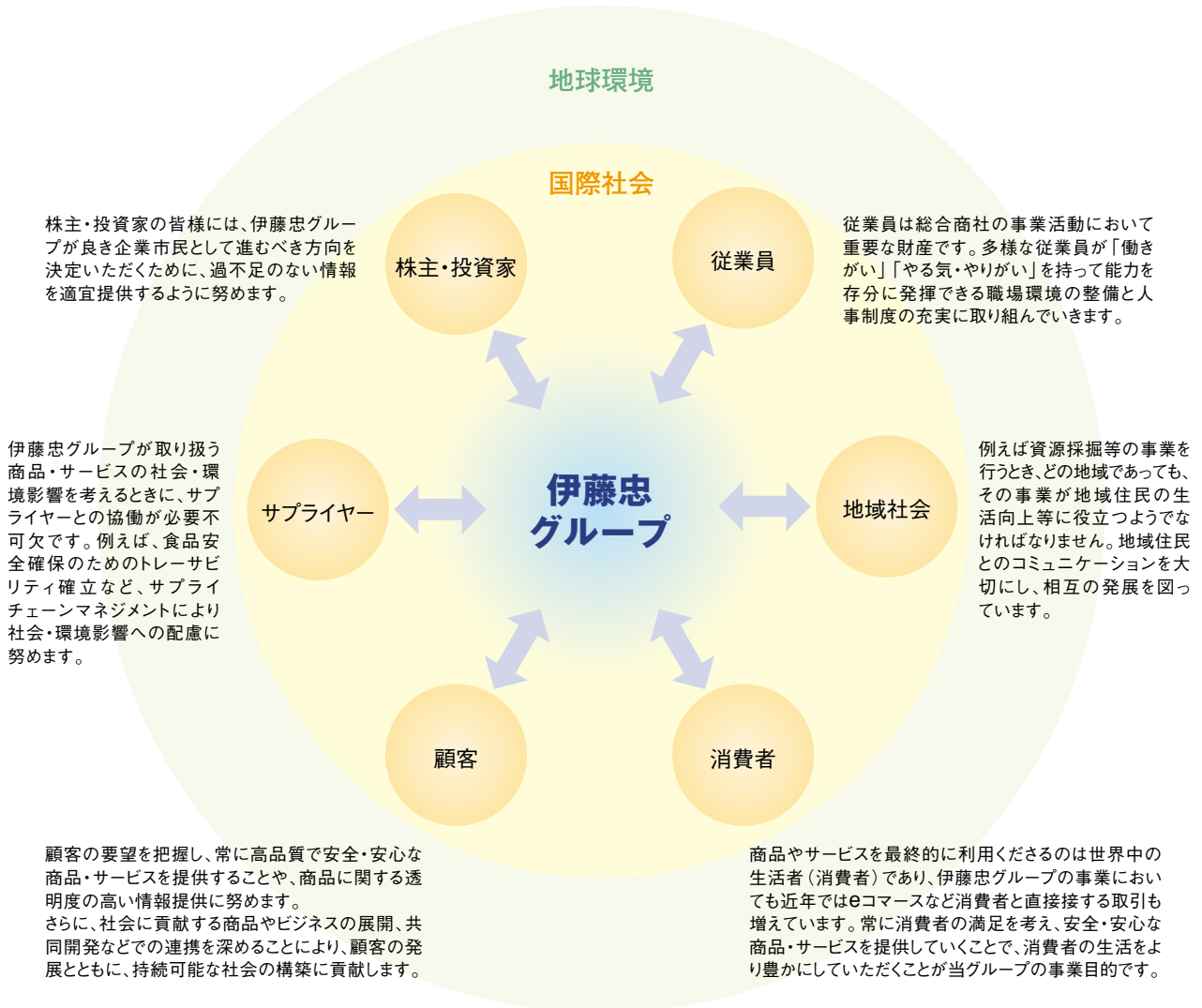
## 伊藤忠グループとステークホルダーとの関わり

多くの地域で多様な事業を展開する伊藤忠グループは、多くのステークホルダーとの関わりを持っています。

当グループが社会と共生していくためには、これらのステークホルダーの期待や懸念をコミュニケーションによって把握し、日々

の事業活動に反映させていくことが最重要であると考えています。ステークホルダーと良好な信頼関係を築いていくことで、当グループの発展とともに持続可能な社会に貢献できると確信しています。

## 伊藤忠グループの主要なステークホルダー



上記の主要なステークホルダーの他にも、NGO・NPO、金融機関、行政官庁、マスコミ、次世代など伊藤忠グループにとって重要なステークホルダーは多く存在しています。

## 伊藤忠商事のCSRとは

### 伊藤忠商事のCSRに対する基本的な考え方

伊藤忠商事は、企業市民として、社会と共生していく必要性を強く認識しています。そして「10年後も100年後も社会から支持・信頼され、必要とされる企業となるために、何をしなければならないか?」について深く考えねばならないと思います。

これらを踏まえて、当社はCSRに対する基本的な考え方を次のようにまとめました。

#### CSRに対する基本的考え方

企業も社会の一員であるとの考え方に立ち  
 良き企業市民としての責任を果たすために  
 企業を取り巻くさまざまなステークホルダーからの要請に配慮し  
 企業自らが  
 積極的にステークホルダーとのコミュニケーションを図ることによって  
 社会にとって有益な経営のビジョンや具体的施策等を  
 生み出し且つ実現し  
 ステークホルダーから支持・信頼を獲得し  
 もって伊藤忠グループの恒久的存続と発展を図る

また、この考え方に基づき、次のような「伊藤らしいCSR活動」を展開していきたいと考えています。

#### 長期的視点で考える

総合商社の社会的役割は、世界に張りめぐらされる情報網など、さまざまなネットワークを通じて社会のニーズを汲み取り、時代の先を読み、社会のニーズに根ざした、一歩先をいくビジネスを創り育てることだと思えます。

長期的な視点で世界を、そしてビジネスを考えることが重要です。

#### みんなで考える

伊藤忠商事は幅広い多角的な営業活動を世界のさまざまな地域で行っており、多くの社員がさまざまな事業やプロジェクトのプロデューサーもしくはマネージャーの役割を担い、いろいろな場面でさまざまな判断を行っています。

社員一人ひとりがそれぞれの持ち場で自ら行うべきCSRを考え実践することを目指します。

#### プロセスを重視する

当社はこれまでさまざまなCSR活動を行ってきましたが、CSRは終わりのない取り組みです。

従って、当社は、CSR上の目標を達成できたかどうかという結果も大事だと思えますが、それ以上に結果を導くための課題の抽出や目標の設定といったプロセスを重視したいと考えます。

### 実効性のあるCSR推進に向けて

これまで述べてきた、伊藤忠商事のCSRに対する基本的な考え方を踏まえて、CSRの推進を「伊藤忠商事 中期経営計画 Frontier-2006」の重点施策のひとつとして位置付けました。また、Frontier-2006期間中のCSR推進基本方針を次のように定め、実効性のあるCSR活動を推進していきます。

#### Frontier-2006期間中のCSR推進基本方針

1. ステークホルダーとのコミュニケーション強化
2. 商品・サービス・人の安全・安心面の向上
3. CSRに関する教育・啓発

当社のCSR活動の中心となるのは、「本業において、持続可能な社会づくりに貢献すること」です。

当社は国内・海外の数多くの拠点において多様な事業展開をしており、社会に与える影響は少なくありません。一方、当社の事業活動はあらゆる面で持続可能な社会の構築に貢献することができる可能性を秘めています。

当社は、当社の持つ幅広い分野のグローバルなネットワークと、優れた人材の力を活かして、事業活動を通じて持続可能な社会づくりに貢献することの重要性を強く感じています。

当社のすべての事業活動をそのような方向に変革していくことは、多くの課題があり、簡単なことではありませんが、当社が行うCSR活動が社会にとって実効性のあるものとなるために、当社は「社員一人ひとりが本業においてCSRを行うこと」を活動方針として決定したのです。

## CSRアクションプランの策定

本業におけるCSRを実効性のあるものとして推進するためには、具体的な取り組みを確実に進めていく必要があり、そのためには、明確な目標と計画が不可欠です。そこで、伊藤忠商事では、「CSRアクションプラン」を策定し、これに基づいてCSRを実行していくことにしました。

当社では、7つのディビジョンカンパニーが、それぞれ異なる業界・分野で事業展開しているため、それぞれの事業領域に則したCSR目標の設定が不可欠であると考え、各カンパニーごとにCSRアクションプランを策定することにしました。

CSRアクションプランの策定に当たっては、各カンパニーで実際の事業活動に携わる社員が議論を重ね、カンパニーの掲げるミッションと、本業の事業内容を深く見つめ直しました。これにより社員一人ひとりが当事者となって何を行うべきかについての計画が具体性をもったものにできたと思います。

策定のプロセスでは、事業活動に関わるさまざまなCSRの課題を抽出することもできました。例えば、マイナーシェアで参画したエネルギー開発案件では、メジャーシェアで事業を運営するビジネスパートナーに対してどこまで働きかけができるかというジレンマが生まれるなど、CSR推進に向けて、今後検討していくべき課題も明らかになりました。

## CSRアクションプランの運用

2005年度に各カンパニーで策定したCSRアクションプランは現在実行段階にあります。取り組みの実績は半期ごとにレビューし、アクションプランを継続的に改善していきます。PDCAのサイクルを経ることで着実に結実させていきます。

## CSR活動のグループ会社への展開

伊藤忠グループでは、グループ全体でCSRに取り組むことが重要であると考え、伊藤忠商事単体から、国内のグループ会社、海外のグループ会社へとCSRの浸透を図っていきます。その足がかりとして、CSRの観点から影響の大きな主要グループ会社をカンパニーごとに数社ずつ選定し、CSR活動の現状把握を行い、同時に2006年度中にグループ会社でCSRアクションプランを策定することを目標に、当社のCSRの考え方の共有や研修会を実施していく計画です。

➡ 各カンパニーのアクションプランはP9～22をご覧ください。

## CSR推進室の役割と活動



CSR推進室長  
中村 政樹

当室として現在最も注力すべき点は「CSRの社内浸透」です。多種多様なビジネスを行っている当社にとって社員一人ひとりがそれぞれの持ち場で自ら行うべきCSRを考え実践するようにCSRを浸透させるのは簡単なことではありません。この難しい課題の実現に向け、当室では他社の優れたCSR事例等の情報発信や社内各階層に対するCSR研修の実施等を通して、CSRに関する教育・啓発を行うとともに、各カンパニーでのCSRアクションプラン実行に対してできる限りの協力・支援を行っていきます。

また、連結経営をグローバルに推進する当社としては伊藤忠商事単体でのCSR推進だけではなく、CSR活動をグループ全体に、海外地域ごとに、そしてサプライチェーンへそれぞれ展開することが今後の課題だと認識しています。

## グループ会社のCSRマネジメント推進に向けたロードマップ

